

NMR プラットフォーム 連携・人材育成利用報告 2022 ～（NMR 担当技術職員ネットワーク（NMR Club）における 高磁場 NMR 遠隔利用環境の構築）～

○稲角 直也^{a)}、木村 悟^{b)}、田沼 萌^{c)}、安東 真理子^{d)}、田口 優佳^{d)}、
勝又 まさ代^{e)}、鳥居 実恵^{f)}、瀧 雅人^{g)}、水田 敏史^{h)}、七村 和彰ⁱ⁾

^{a)}大阪大学、^{b)}北海道大学、^{c)}岩手大学、^{d)}東北大学、

^{e)}山梨大学、^{f)} 東海国立大学機構、^{g)}名古屋工業大学、^{h)}鳥取大学、ⁱ⁾鹿児島大学

1. はじめに

文部科学省「先端研究基盤共用促進事業（先端研究設備プラットフォームプログラム）」NMR プラットフォームが 2021 年度から実施されている。2021 年度末に NMR プラットフォームの連携・人材育成利用について、課題申請したところ採択された。本発表では、2022 年度の経過報告を行う。

2. 課題申請内容（抜粋）

NMR 担当技術職員ネットワーク（以後 NMR Club という）では、1 人職場になり易い技術職員に対し研究基盤の強化を目的として、各機関の共用 NMR における相互利用促進や人材育成を実施している。現在、技術職員が管理している共用 NMR は 300MHz～700MHz が多く、高磁場 NMR を利用する機会はありません。本課題では、技術職員が日頃接していない高磁場 NMR を、必要に応じて利用できる体制を整備することにより、各機関における NMR 装置利用の選択の幅を拡大することを目的としている。

3. 2022 年度実施内容

理化学研究所 NMR 群 遠隔利用

- ・第 1 回遠隔利用：8 月に初回利用を実施し、理化学研究所の NMR について遠隔利用方法の確認と実施についての打ち合わせを行った。参加者：1 機関、1 名
- ・第 2 回遠隔利用：9 月に参加機関の技術職員による各機関のサンプルについて大阪大学に送付し、本課題実施者が理化学研究所へ輸送し TeamViewer と Zoom を用いて参加機関の技術職員と共に遠隔測定を実施した。参加者：6 機関、7 名
- ・第 3 回遠隔利用：2 月には参加機関のサンプルを理化学研究所に直接輸送し、測定を含め完全遠隔利用を実施した。参加者：9 機関、9 名

大阪大学蛋白質研究所 NMR 群 NMR 講習

- ・第 1 回 NMR 講習：9 月に大阪大学蛋白質研究所の NMR 群を利用し高速測定講習を実施した。また固体 NMR 群（DNP）の施設見学も実施した。

参加者：11 機関、11 名

4. 謝辞

NMR プラットフォーム 連携・人材育成利用を行うにあたりご尽力して頂きました理化学研究所 木川隆則先生・長島敏雄先生、大阪大学蛋白質研究所 宮ノ入洋平先生にはお礼申し上げます。